

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【穀物、北陸農政局】

新潟県 JAえちご上越（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R9）

- 老朽化した稲種子調製施設等を4施設から3施設に再編し、広域シードセンターを新設して、調製作業を集約することで品質向上を図る。
- 再編集約により採種ほ面積の維持・拡大を図るとともに調製機能向上により、品質を確保し、優良種子の安定生産につなげる。

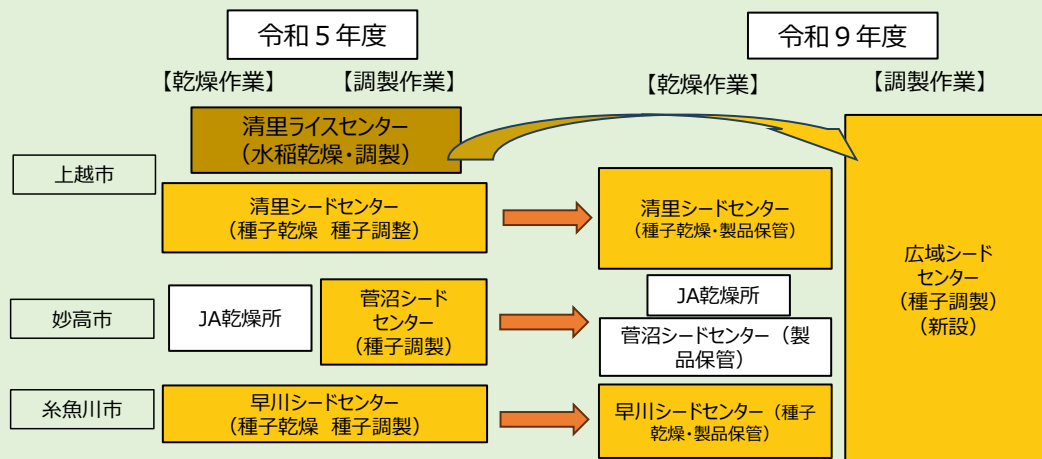
現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 3地区でそれぞれ施設において水稻種子の乾燥・調製を行っていたが、施設の老朽化に伴い、施設運営費、修繕費等がかかっており、施設の効率運営が課題。
- また、出荷作業の効率が低いことから作業期間が長期化。
- さらに、異常気象を起因とした品質低下により、過去5年の正種子の割合が85%程度と低位。

【再編集約の内容】

- 水稻種子生産の維持・拡大、作業人員確保および種子の安定供給を図るため、清里ライスセンターの内部設備を撤去し、建屋の利活用を図り、跡地に広域シードセンターを新設。これにより、各施設で実施していた調製作業を統合し、既存施設を4施設から3施設へ再編集約。

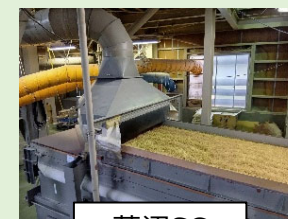


再編集約・合理化等で期待される効果

- パレタイザーやフレコン計量機等の導入により製品の一部をフレコンで管理することで、作業時間を大幅に短縮し、作業負担の軽減と労務費を約1/3に低減する効果が期待できる。
- 新たに色彩選別機を導入し、着色粒を除去することで整粒割合を高め正種子率の向上（令和9年度までに100%に向上）を図る。
- このことにより、県産種子の高位安定供給体制の増進、施設運営コストを約3/4に低減及びJAの作業員の安定確保による持続的な施設運営等の効果が期待できる。



清里（青柳）SC



菅沼SC



早川SC

他産地へのメッセージ

- 水稻種子生産現場においては、施設の老朽化や作業人員の不足が課題となっており、各産地で検討が進んでいるものの、具体的な再編事例が乏しかった。
- 今回、農協の広域合併に伴う類似機能を再編集約するため、本事業をうまく活用し、話し合いを進めることができた。他産地においても外部環境の変化をチャンスと捉え、合意形成の促進に取り組むことが重要。